

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	本校では、教科によって「知識・技能」に関する力に差が見られることが課題であると言える。そのため、次年度は、今年度と同様にICTを活用した個別最適な学習の実現に取り組むとともに、教科の特性に応じた学習指導の見直し・改善を図る。
思考・判断・表現	本校では、教科によって「思考・判断・表現」に関する力に差が見られることが課題であると言える。そのため、次年度は、今年度と同様に「さいたま市『アクティブ・ラーニング型』授業」の実践に取り組む。その際、教科ごとに「自力」「協働」「練り上げ」に係る学習活動を再考し、より効果的な学習指導を行えるよう見直し・改善を図る。
主体的に学習に取り組む態度	本校では、日々の教育活動によって主体的に学習に取り組む態度が育まれてきているが、学年間での差が見られることが課題であると言える。そのため、今年度と同様にポートフォリオに取り組むとともに、生徒の内発動機を高める工夫を行うことで、学び続ける力の素地を養っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において3pt向上させる。 (例)英語の自校テストにおいて、「知識・技能」の平均点を年間で80点以上を維持する。	⇒ ICTを活用した視覚的に分かりやすい授業支援が必要な生徒へのサポート
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。 (例)R5年度全国学力・学習状況調査において、英語の「読むこと」において、80ptを上回る。	⇒ 「Teams」など活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 問題解決型学習を取り入れ、実践的な学習を行う

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において2pt向上した。	B
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において3pt向上した。	A
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目への肯定的な回答の割合は各学年で80%を越えている。特に第3学年においては90%と高い割合となった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語0pt、数学+1pt、英語+2ptであった。
思考・判断・表現	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題がみられた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は82%で目標値に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	さいたま市学習状況調査では、どの教科も概ね、市平均と同等の結果となっている。特に社会に関しては「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに市平均を上回っている。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目への肯定的な回答の割合も85%となった。
中2	さいたま市学習状況調査では、国語、数学、社会で概ね、市平均と同等の結果となっている。しかし、理科に関しては「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに市平均を大きく下回っている。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目への肯定的な回答の割合も82%となった。
中3	さいたま市学力検査では、どの教科も市平均を下回る結果となっている。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目への肯定的な回答の割合も90%となった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし